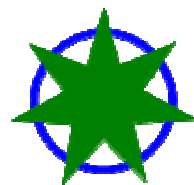


担い手の育成・確保及び 支え合い体制づくりについて



青森市福祉部福祉政策課

【内容】

- ・「青森市地域福祉計画」の重点事業の現状と課題
- ・ボランティアポイント制度
（概要、対象活動、活動事例）
- ・地域支え合い会議（大野モデル地区）
- ・地域活動支援センターへの訪問・聞き取り調査
- ・(株)セブン-イレブン・ジャパンの「あんしんお届け便」

・「青森市地域福祉計画」の重点事業の現状と課題

重点事業	現状・課題
地域福祉の担い手の育成・確保のための取組	
① ボランティアポイント（地域福祉サポーター登録） 制度の創設	・サポーターの登録者数は増えているが活動割合が伸び悩んでいる。
② ボランティアセンターの運営強化	
地域で支え合う体制づくりのための取組	
③ 地域共助ネットワークの構築	・地区カルテは整備されたが、自主的かつ活発な支え合い会議等の開催にまで至っていない。
④ 地域支え合い推進員 （コミュニティ・ソーシャルワーカー：CSW）の配置	
⑤ 地区カルテの整備	

(1) ボランティアポイント制度の概要

【目的】

ボランティア活動を行ったことのない方々の、ボランティア活動に参加するきっかけ作りとして、また、高齢者の方々の社会活動への参加を通じた介護予防を目的として実施する。

【概要】

制度の対象となる地域福祉活動に参加し、ボランティアポイント手帳に確認スタンプを貯めることで、年間最大5,000円相当の「商品券」又は「市営バスカード」と交換できる。

【その他】

- ・ ボランティア活動保険に加入（自己負担なし）
- ・ ボランティア登録者を「地域福祉サポーター」と呼ぶ。

(2) 制度の対象となる活動

町(内)会や地区社会福祉協議会及びボランティアセンターが実施する、次のような活動

- ◆ 高齢者同士や若年者等との交流の場の提供及び運営
- ◆ 高齢者世帯等の訪問見守り活動
- ◆ 高齢者の仲間づくりや生きがいづくりのための給食会や茶話会の運営
- ◆ 介護予防体操の普及及び運営補助
- ◆ 町(内)会、地区社会福祉協議会が自主的に行う歩行者用道路の除雪活動
- ◆ 高齢者世帯等の間口除雪の補助活動
- ◆ **障がい者との交流活動**

H31(R元)年度新規 など



(3)地域連携による活動事例①

横内町会 冬期通学路等除雪事業 実行委員会



【実行委員会メンバー】 6班体制、計70名

町会有志(52名)、横内市民センター(1名)、青森うとうの園(1名)、
特別養護老人ホーム三思園(2名)、サングループホーム横内(1名)、
横内中学校(3名)、青森中央学院大学(9名)、(株)鹿内組(4名※毎回1名参加)

(3)地域連携による活動事例②

横内町会 冬期通学路等除雪事業 実行委員会

項目	内容								
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 町会内の歩道及び横内小・中学校区内の通路等の除雪を行う。 								
実施期間	<ul style="list-style-type: none"> 12/1～翌年3/31の月1回程度 原則、第3日曜日の午前中（9時から12時まで） 								
H30年度活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会設立総会（11/25） 除雪活動①42人（12/16）、②36人（1/13）、③37人（2/17） 事業活動報告会（4/14） 								
その他	<table border="0"> <tr> <td>株式会社 鹿内組</td> <td>職員派遣</td> </tr> <tr> <td>医療法人芙蓉会 芙蓉会病院</td> <td>雪ベラ 5本（寄贈）</td> </tr> <tr> <td>医療法人芙蓉会 村上病院</td> <td>雪ベラ 5本（寄贈）</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 朝光苑</td> <td>雪ベラ 5本（寄贈）</td> </tr> </table>	株式会社 鹿内組	職員派遣	医療法人芙蓉会 芙蓉会病院	雪ベラ 5本（寄贈）	医療法人芙蓉会 村上病院	雪ベラ 5本（寄贈）	特別養護老人ホーム 朝光苑	雪ベラ 5本（寄贈）
株式会社 鹿内組	職員派遣								
医療法人芙蓉会 芙蓉会病院	雪ベラ 5本（寄贈）								
医療法人芙蓉会 村上病院	雪ベラ 5本（寄贈）								
特別養護老人ホーム 朝光苑	雪ベラ 5本（寄贈）								



まとめ

◆制度の目的

- 地域の互助を進めるボランティアの人材確保と育成が狙い。
- 活動で体を動かした高齢者の介護予防にもつなげたい。

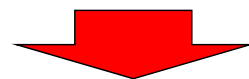


◆背景

- 人口が減少する一方、長寿命化により老後期間が延びてきている。
- 地域とのコミュニケーションが希薄な世帯がどんどん増えている。

◆制度の課題

- 市内のサポーターの多くは高齢者。担い手不足の懸念は常につきまとう。
- サポーターの登録者数は増えているが、活動割合が伸び悩んでいる。



- ・ 継続的なボランティア活動に結びつくよう、ボランティア参加希望者と受入団体とのマッチングや情報発信の強化を図っていく。
- ・ 広報あおもりや市ホームページ、出前講座や市社協研修会など多様な機会を捉え、市民のボランティア活動に参加する機運を高めていく。

(1)地域支え会議（大野モデル地区） ①



【日時】 令和元年5月22日 18:00～

【場所】 大野市民センター

【参加メンバー（※兼任あり）】

町会長

地区社協会長

大野民児協会長

大野市民センターまつり代表

大野地区子供会代表

おおの地域包括支援センター所長

在宅介護支援センターじゅえい所長

金沢小学校父母と教師の会会長

防災士

青森市福祉政策課

青森市社会福祉協議会

（支え合い推進員）

【会議の主な内容】

- ・ 委員長の決定、参加メンバーの確認
- ・ 支え合い会議開催の趣旨確認
- ・ 互いの活動の情報交換（フリートーク）

【情報交換で中心となった話題】

- ・ 町会で行っている介護予防教室について
- ・ 片岡福祉館を利用しての地域活動について

(1)地域支え会議（大野モデル地区）②

介護予防教室について（概要）

（意見・質問）

- 地域包括支援センターでは、すぐに介護保険サービスの利用に結び付けず、町会の様々な活動を把握し、参加を促している。
- こちらの縁側事業が大野地区全体で行われているが、町会単体でも健康教室を行っているところがある。
- 月1回の「こちらの縁側」への参加だけではなく、町会開催の事業にも参加できると2回、3回と介護予防活動が増えていく。
- 他の町会への事業にも参加できないものか。

⇒町会の事業は町会員の会費で行っているのが難しいと思う。
⇒別の町会の事業に参加するのは心情的にも少しまずいのかなと思う。



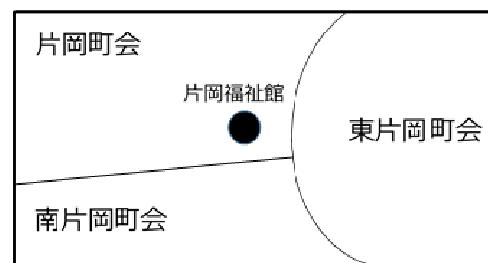
（まとめ、結論）

- 町会間の交流事業ということで、試しに1回やってみるのはどうか。⇒ 今後の検討

片岡福祉館での地域活動について（概要）

（意見・質問）

- 片岡福祉館が、東片岡町会との片岡町会の真ん中にある。例えばロコモ体操をやるので福祉館の周りの人たちに来て欲しいとチラシを回しても、今回は、〇〇町会の人があるので私は参加できないとか、垣根ができていていると思っている。



⇒町会にはそのような意見は寄せられていないし、垣根は作っていないので、住民の頭の中に、そういう考えがあるのかもしれない。（気づき）

（まとめ、結論）

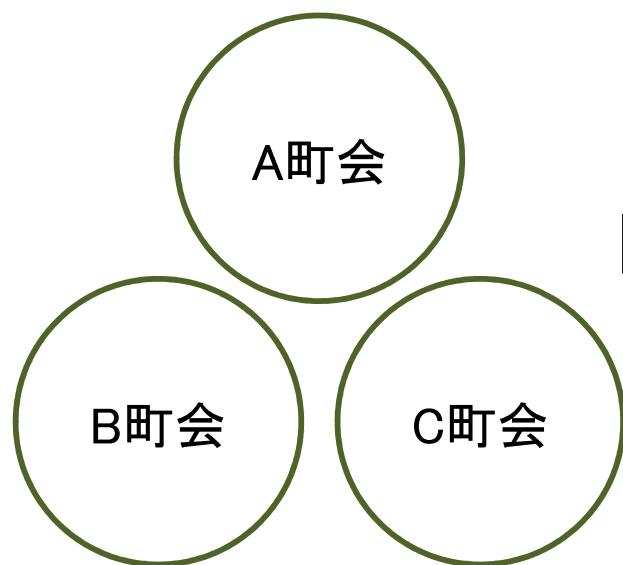
- 東片岡町会では、町会と老人クラブが合同で活動している。隣近所の町会が合同で集まり、片岡福祉館で会食会などを開けないだろうか。 ⇒ 今後の検討

(1)地域支え会議（大野モデル地区）③

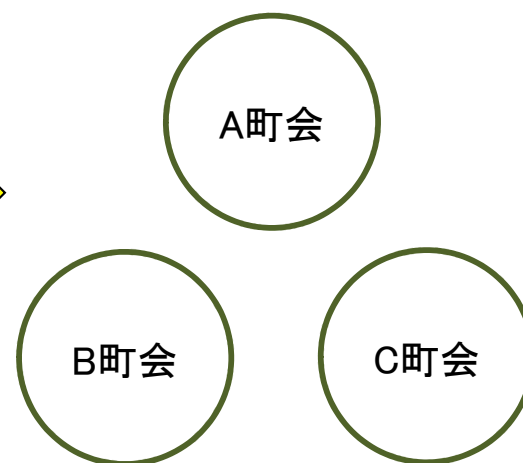
◆参加者の気づき

- 各町会の活動の中に、町会同士が連携できる事業があるのではないか。
- 連携により、活動内容の充実が図られる可能性があるのではないか。
- 例えば、各町会が1年に1回行っている行事を、複数町会が持ち回りで行えば、開催準備の負担軽減につながるのではないか。

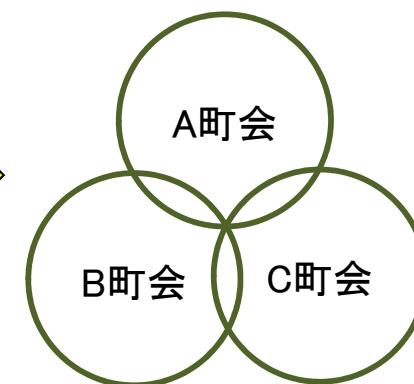
【昔の地域コミュニティ活動】



【現在の地域コミュニティ活動】



【活動のつながり】



(2)地域活動支援センターへの訪問・聞き取り調査①



[目的] 地域支え合い活動の一翼を担える可能性の確認

[期間] 6月27日（木）～7月5日（金）

[対象] 地域活動支援センター

- ・在宅の障がいのある方を対象に、日常生活の相談や地域交流活動を通して地域での生活支援をする施設。

[訪問施設] ワークあかり（橋本） 八甲（問屋町）

しらかば共同作業所（桂木） やましろ（六枚橋）

waiwaiはうすコスモス（新城） すばる（四ツ石）

フレンドワークぼんじゅ（浪岡）

【聞き取り結果（主な内容）】

[主な活動内容]

- ・手芸・裁縫やクラフトなどの創作活動
- ・社会体験（遠足、交流会、バザー出店等）
- ・地域清掃活動、回収アルミ缶選別
- ・生活訓練（買い物、調理）

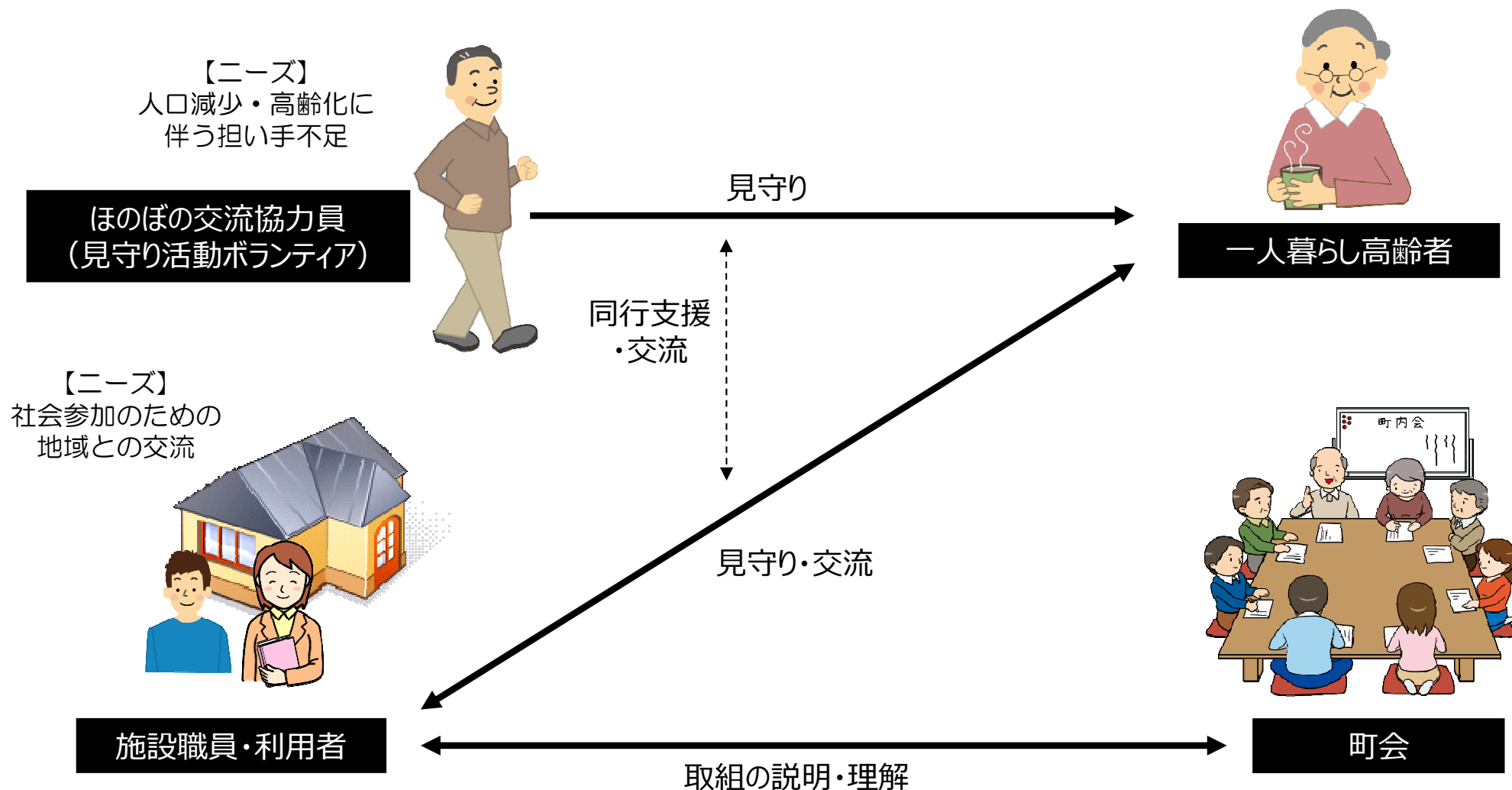
[施設の課題]

- ・入所者、職員の高齢化
- ・施設ボランティアの減少・高齢化
- ・地域の受け入れ（施設への理解）

【特記事項】

- ・ある施設から、地域交流・支え合い活動の可能性があると回答を得られる ⇒ 内容は次頁

(2)地域活動支援センターへの訪問・聞き取り調査②



**障がい者福祉施設も参加しての見守り支援 ⇒ 今後調整予定
(施設では、通所者の意思次第ではあるが、可能性はあるとのこと。)**

(3) (株)セブン-イレブン・ジャパンの「あんしんお届け便」①



◆移動販売サービス「セブンあんしんお届け便」

独自に開発した販売設備付きの軽トラックで日常のお買物に不便なエリアや移動手段にお困りのご高齢の方が多く地域を中心に巡回する移動販売サービス。

常温の商品から冷凍品までさまざまな食品や飲料などを用意している。

⇒市内では「青森流通団地入口店」1店で実施。

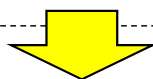
月	火	水	木	金
13:00~17:30	13:20~17:20	13:20~17:30	13:00~17:30	13:30~17:30
野木 大別内 金浜 野沢 小館	雲谷 横内 四ツ石 田茂木野	荒川	上野 牛館 新町野 合子沢	入内 朝日山 高田

- 価格は店頭価格と同一で配達料不要。
- 現地に到着後、音楽を流して低速で走行。
- 常連となった方の家に個別訪問。
- 牛乳、豆腐、卵といった食料品が売れる。

(3) (株)セブン-イレブン・ジャパンの「あんしんお届け便」②

【現在の課題】

- ・「あんしんお届け便」を始めるにあたって、各町会長に挨拶をし、チラシを每户配布した。
- ・はじめは、地域の集会所などに車を停めて待っていたが、人がぜんぜん集まらなかったため、車でエリア内を回り、一度買ってもらったお客さんのところに、次回から回るようになった。
- ・困っている方がいると思うが、どこにいるか分からない。



【検討内容】

- ・こころの縁側事業や認知症カフェなどを通じて、あんしんお届け便の説明や実際の販売をして、困っている人やニーズを把握して戸別訪問につなげられないか。
- ・福祉施設の方と話をし、施設利用者のニーズを調べられないか。



・個別訪問の最中、車から流れる音楽を聞いたのか、少し離れた家から歩いてもう一人の高齢の方が販売車を訪れる。3人で近所に住む方の話や世間話をする。



【現状】

- ・南地域包括支援センター、地域包括支援センター寿永と連携の可能性が生まれている。

(株)セブン-イレブン・ジャパンの活動と市の事業が融合できないか、今後、地区社協や民生委員、町会なども交えて、高齢者の見守り活動の話し合いを進めていきたい。

まとめ

◆現状

- 地域内の福祉施設や民間業者等関係者が集まり、地域の福祉課題や支え合い体制を協議する支え合い会議の自主的かつ活発な開催に至っていない。

◆背景

- 具体的なテーマが無いと開催できないという思いがある。
- 課題が出たとき、誰がそれを解決するのかという不安。
- さまざまな会議がたくさんあり、うんざり。

◆解決のヒント

- モデル地区大野をヒントに、町会同士の連携による負担軽減探し。
- 福祉施設との地域交流ニーズをきっかけとした話し合いの場の開催。
- 民間事業者の社会貢献をきっかけとした話し合いの場の開催。



地域支え合い推進員を中心に、個々の地区の特徴に応じた具体的課題・テーマ選定により、話し合いの場の開催につなげていきたい。